



田植えの様子



苗に笑顔の児童

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

手作業で田植え体験

立派でおいしいお米に育ちますように！

中央小5年生43人

6月12日、中央小学校5年生43人が、八幡舞台の田んぼにて、手作業で田植えを体験しました。同体験は総合的な学習の時間の授業の一環。一つ一つ手で植える昔ながらの工程や食の大切さを学んでもらおうと、地元農家の協力のもと、毎年この時期に実施されています。事前に地元農家の人から基本的な苗の植え方等

を学んだ後、田んぼでの田植えに挑戦。児童は、ぬかるむ泥の感触を楽しみながら、笑顔で苗を植えていました。西口愛梨さん(10)は、「はじめは難しかったけど段々慣れて上手にできた。立派でおいしいお米に育ってほしい」と話していました。今回植えられた苗は、10月に稲刈りを行い、収穫したお米は授業で児童自らが調理し、おいしくいただく予定です。



泥の感触を楽しむ児童

渾身の一手 世代超え熱戦

第27回佐藤康光杯争奪将棋大会

6月15日、八幡市出身のプロ棋士、佐藤康光九段を迎えた「第27回佐藤康光杯争奪将棋大会」が市文化センターで開催。市内外から6歳～90歳の235人が参加し、世代を超える熱戦を繰り広げました。同大会は、佐藤九段が平成10年に第56期名人位を獲得した記念に、平成11年から開催されています。大会の開会式で佐藤九段が「将棋界発展のため、皆さんの期待に添えるようにまい進します」とあいさつ。大会は段位や年齢により5階級に分かれ、トーナメントを展開。佐藤九段は参加者の対戦を見て回った後、小学生以下を対象にした多面指し指導を実施。勝敗

が決すると、子どもたちと対局を振り返り、丁寧に指し方を伝授していました。枚方市在住の熊谷貴斗さん(10)は「今年も緊張した。佐藤九段と対局できて嬉しかった」と話していました。



多面指し指導で子どもたちと対局する佐藤九段

中学生が保育士体験



園児とおままごとをして遊ぶ久村望さん

将来の夢かなえるきっかけに

男山中学校2年生が6月4、5日の2日間、市内の保育園や飲食店などの各事業所で職場体験学習に取り組みました。本体験は、生徒に職業の魅力や現場の雰囲気を知ってもらおうと、毎年この時期に実施されています。やわたこども園の職場体験学習には6人が参加。生徒は3～5歳

児のクラスに分かれ、お絵描きやボードゲーム、泥遊びやおままごとなどをして子どもたちと交流しました。最初はお互い緊張していた様子でしたが、遊びを通してすぐに距離が縮まり、すっかり仲良しに。ふれあいの時間を通じて、園児と楽しさを共有したり、人と人との関わり大切さを学んだり、保育の仕事を知る貴重な体験となりました。同園の卒園生で、将来の夢が保育士である久村望さんは、「この体験を通じて保育士になりたい気持ちがいよいよ強まった」と話していました。

今月のこの人

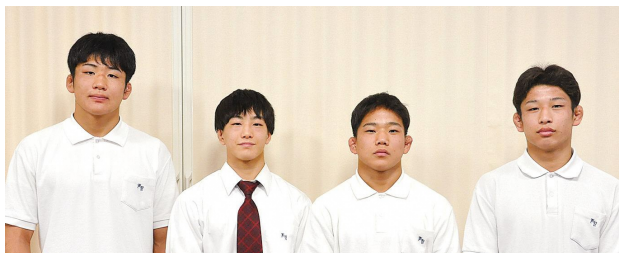
高校総体府予選

4人が優勝 全国へ挑む

京都八幡高校 男子レスリング部

右から

田島翼さん(60kg級)
鶴野大河主将(65kg級)
由井仁之介さん(55kg級)
小西寿さん(80kg級)



府立京都八幡高校男子レスリング部の4人。いずれも令和7年度全国高校総体京都府予選で優勝し、今夏の全国高校総体(インターハイ)に出場予定。

「自主自立の精神を大切に、チーム全員で強くなり、個人・団体共に優勝したい」と意気込みを語るのは、京都八幡高校男

子レスリング部主将で2年の鶴野大河さん。6月1日に行われた全国高校総体京都府予選で4階級を制覇し、全国大会出場権を獲得した京都八幡高校。2年の由井仁之介さんは、「ケガが続いていたので緊張したが、勝てて嬉しい」と大会を振り返り、「初めての全国大会を楽しみたい」と笑顔を見せました。

3年の田島翼さんは、「自分から攻めて圧勝したい」と、春の全国選抜大会でも優勝した貫禄を感じます。2年の小西寿さんは、「ずば抜けた才能はないのでコツコツ努力します」と謙遜しながらも、目標は優勝と熱く語りました。過去、春の全国選抜大会で2度団体優勝を果たした先輩方の偉業も意識し、主将の鶴野さんからは「この世代で春夏連覇を成し遂げたい」と決意の言葉がありました。